

Gliomatosis cerebri 12例におけるMRS、C-11 methionine PETの検討

伊藤 毅¹, 竹中 俊介¹, 三輪 和弘¹, 奥村 歩¹, 横山 和俊¹, 篠田 淳¹, 村垣 義浩²,
丸山 隆志², 大江 直行³

¹木沢記念病院中部療養科/脳神経外科, ²東京女子医科大学 脳神経外科,
³岐阜大学 脳神経外科

【目的】 Gliomatosis cerebri (GC) は2007年のWHO分類によれば大脳3葉以上に拡がる浸潤性の強い慢性のgliomaであり、稀な疾患とされている。今回われわれはGC12例のMRSおよびC-11 methionine PET(MET-PET)所見を検討した。【方法】2007年3月より現在まで当施設において検査を行った脳腫瘍患者のうち、MRI T2強調画像およびFLAIR画像にてGCと診断した症例は12例であった。このうち摘出術または生検術が行われ、組織診断された症例は10例(grade 2 4例、grade 3 6例)であった。これらの患者におけるMRSおよびMET-PET所見を検討した。MRSは腫瘍部におけるcholine(Cho)/creatine(Cr)、Cho/N-acetylaspartate(NAA)を、MET-PETは腫瘍部最大standardized uptake value(SUV)/正常脳皮質平均SUVをT/N比として検討した。【結果】Cho/Crは全体で 3.10 ± 1.32 、grade 2 1.92 ± 0.36 、grade 3 4.03 ± 1.23 で、grade 2、3間に有意差を認めた。Cho/NAAは全体で 6.18 ± 5.05 、grade 2 2.28 ± 0.63 、grade 3 9.93 ± 4.67 で、grade 2、3間に有意差を認めた。MET-PET T/N比は全体で 2.82 ± 0.95 、grade 2 2.72 ± 1.01 、grade 3 2.97 ± 1.08 で、grade 2、3間に有意差を認めなかった。【結論】GCにおけるMRSとMET-PET所見を検討したが、腫瘍の悪性度判定には前者が後者よりも有用な傾向を認めた。